

緑の分権改革推進会議第一分科会（第4回） 議事要旨

1 日時 平成23年1月21日（金）15時00分～17時00分

2 場所 中央合同庁舎第7号館13階共用会議室

3 出席者

委員：大杉委員、小田切委員（主査）、串原委員、高端委員、山口委員

4 議事次第

(1) 開会

(2) 議事

①平成23年度緑の分権改革関連予算案について

②「緑の分権改革」調査事業の進捗状況について

③改革の推進のための課題と改革のモデルについて

5 議事の経過

<議事①～③>

事務局より、資料の説明を行い、その後以下の質疑応答・討議が行われた。

○ 各団体の委託事業の取組をまとめた第一分科会の報告書については、その中で特にどのような面でどういう効果があったというところが、他の自治体で活用していく上で非常に重要な資料になると思う。

○ 各団体の取組の概要ペーパーを各団体に作っていただきたい。作成したペーパーにより、事業開始前と終了後で何が進んだのかという点を団体に考えていただくのは有意義である。

○ 先行して取り組んできた団体の場合は、これまでの取組の一部として今回の調査を行っているという面もあることから、今回の調査部分だけを切り取って出すと、委託事業の成果として見えづらくなってしまわないか。

⇒ これまでの取組のノウハウをいただくことも今回の委託事業の目的であり、これまで取り組んでこられた団体の場合は、これまでの取組もわかりやすいような形で示したい。

○ 「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」と取組の要素ごとに整理されているようなまとめ方であれば、他の自治体はその要素ごとに部分的に見ても関心を引けると思われるし、全

体的に見たときに取組の仕組みが分かるような報告書であれば、自治体に役立つものになるという感想を持った。

- まとめ方として、それぞれの委託事業の取組について、課題に対してどのような試みを行っているかということ淡淡と記載する形にした方がいいのかもしれないと感じた。
- 全ての委託事業での取組を淡淡と記載するような形と各取組から良い部分を抽出して総括的にまとめる、いわばアクセントをつけたような形があるかと思うが、アクセントがあった方が読み手には分かりやすいと思う。
- 各取組を「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」で整理するという考え方はスタンダードな切り口で分かりやすいと思うが、「複数主体の調整、連携」のような取組のベースになる全体のシステムという視点も必要だと思う。緑の分権改革が社会システムの変革を目指すのであれば、こういったシステムが委託事業によってどう変化したのかを別分類として整理しても良いのではないかと。
- まとめ方として、各取組を「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」で整理してまとめた部分と良い取組をピックアップしてモデルとしてまとめた部分とで構成することとした場合、モデルの表現としては取組をそのまま記載するか、ある程度定式化した方がいいのか難しい問題だと思う。
- まとめ方のイメージとしては、27団体それぞれのプロセス・成果をまとめた個表の部分、この場面で何が必要なのかという情報を得ることが出来るよう「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」等で整理した部分、良い取組をモデルとしてまとめた部分の三部構成になると思うが、モデルの部分は詳細なものより緑の分権改革のイメージが漠然と出てくるようなニュアンスでいいと思う。

以上

(文責：総務省地域力創造グループ緑の分権改革推進室)